

事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：2021年3月4日

公表：2021年 3月 29日

事業所名 第二パーチェ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		点字ブロック・鏡付きエレベーター、階段の手すり等を設置しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動によって室内を仕切り、遊びを複数展開しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者からの意見については適宜対応しています。年度末に、事業所に対してのご意見や通園しての感想等を文書にてたずねています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公表しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		法人内の監査や評価を受けていますが、外部評価は現在うけていません。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		様々な研修の案内を事業所に貼りだし、外部研修の参加を促しています。参加した内容について、文書を提出し、内部研修を通して共有しています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		発達について専門性を高めるよう、研修等を実施しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		独自のアセスメントツールを作成し、使用しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		療育内容を記録する際に全員でその日の動きを振り返り、次の課題設定につなげています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラム立案表、業務日誌をもとに、次の活動を設定しています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別の姿を踏まえたうえで、集団活動の様子を記載しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		療育内容を記録する際に全でその日の動きを振りかえり、次の課題設定につなげています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6月に一度、モニタリングを行い課題を見直して面談しています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			事業所に併設の相談支援事業所で職員が兼務して対応しています。児童発達支援管理責任者を中心に会議を行っています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		はぐくみ室や児童相談所と連携をしています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	現在、医療的ケアの必要な方はおられません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	左記のような移行支援の対象者はおられません。転居等の際には引継ぎの資料を作成し、情報共有しています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学時には希望者に対して引継ぎ資料を作成しています。また、必要に応じて学校とカンファレンスを行っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	保育所や幼稚園との並行通園の子どもが多いので交流の機会はありません。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		中京区の「発達支援ネットワーク」や「すこやか親子教室」に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		療育終了後には保護者にその日の様子を報告しています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		月1回親グループを行い、子どもの発達や子育てについて学習を行っています。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		年度当初、契約時に説明させていただいています。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		管理者・児童発達管理責任者を中心にを行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親の会の運営を支援しています。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回「パーチェだより」を発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	例年は地域の活動に参加していますが、今年度はコロナ感染予防のため実施していません。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアルを作成しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入所時に保護者から聞き取りをしています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		入所時に保護者から聞き取りをしています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	子どもの行動が危険な時にのみ、制止することを職員で確認しています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。